

北尾雪筑翁書
寶曆四年刊

繪本武者兵林

上

畫本武者兵林序

を安んず法世不出く後を鼓く楽しむ

と室細く徳よあ〜とてちんぞや

を月〜活る無武ふ行〜とて示あん持也

志う進ばそ息と盤〜線〜色敷

久ふ尊思つさへ多むや是を幼き

知〜多入ハ函を以〜せんハ志に

の世小冊る〜と教あ〜とせん



2014.3.17

武百兵林一

の序

姿の極を弄んぶてあふふをひくは
 失と申し一筆を及がして我
 日本^{ひのくに}の武徳をばととめん^{よめ}國を北庭氏
 小画^{こゑ}圖をこころし雪坑^{ゆき}齋^{さい}をを修して
 肘^{ひぢ}をくげ筆を及忽^{たち}尔とてそのの
 書^{まね}をちあせり其勢^{そのいきほ}海^{うみ}をさるるがぶとて
 顔^{かほ}して武者^{むしゃ}兵井^{へいゐ}とて云

寶曆甲戌初秋吉辰 浪華散人書

畫本武者兵林上

神功皇后

源頼政

原原与一

牛若辨慶

景清宗行

平忠盛

諸葛孔明

越後能景

巴女

那須與一

神后三韓とくえんと

くろらぎしきよ時

火前のふよ

ゆくりあひらめづ

松の枝を折る

逆の地こそて



吾駈の國をゆり

さしむけねげべー

のこめひーがま

茶くくろををけい

生るりたるとま

今もお生ね系とま





上皇祇園女流へ志のびのり
の時忠盛馬よりく供をせり
あやうきと矢をつがひ



あやうき時ハ
むくあし
むくあし

盛衰記



源三郎
義光

源三郎
義光



蜀の軍帥孔明
を伏せしめ
を伏せしめ
を伏せしめ



九市の曹司奥秀平と
おさんや山姥のままきり
のみふり平家こもひ
同家を一を治まらぬ
をを傾けゆ

このあまよ
るの踏揚のあはれ
さめとかうらやま
振仰てはとれ
らやうらやま
平家のさうんと
鼻ふり碇と
うらやま
うらやま



さんぐゑんは
ありて切ら
いりつゝも
おのれさお
二うらやま
うらやま
うらやま
うらやま
うらやま
うらやま



本ある件六條

河系合戦の日

今ある女房の

さかきまふまゝ

昔時さういふれを

越後中を眺景

アタハハ歌既

河系まで責入

何とてお解き

痛くして

あまの

やうに

社にお

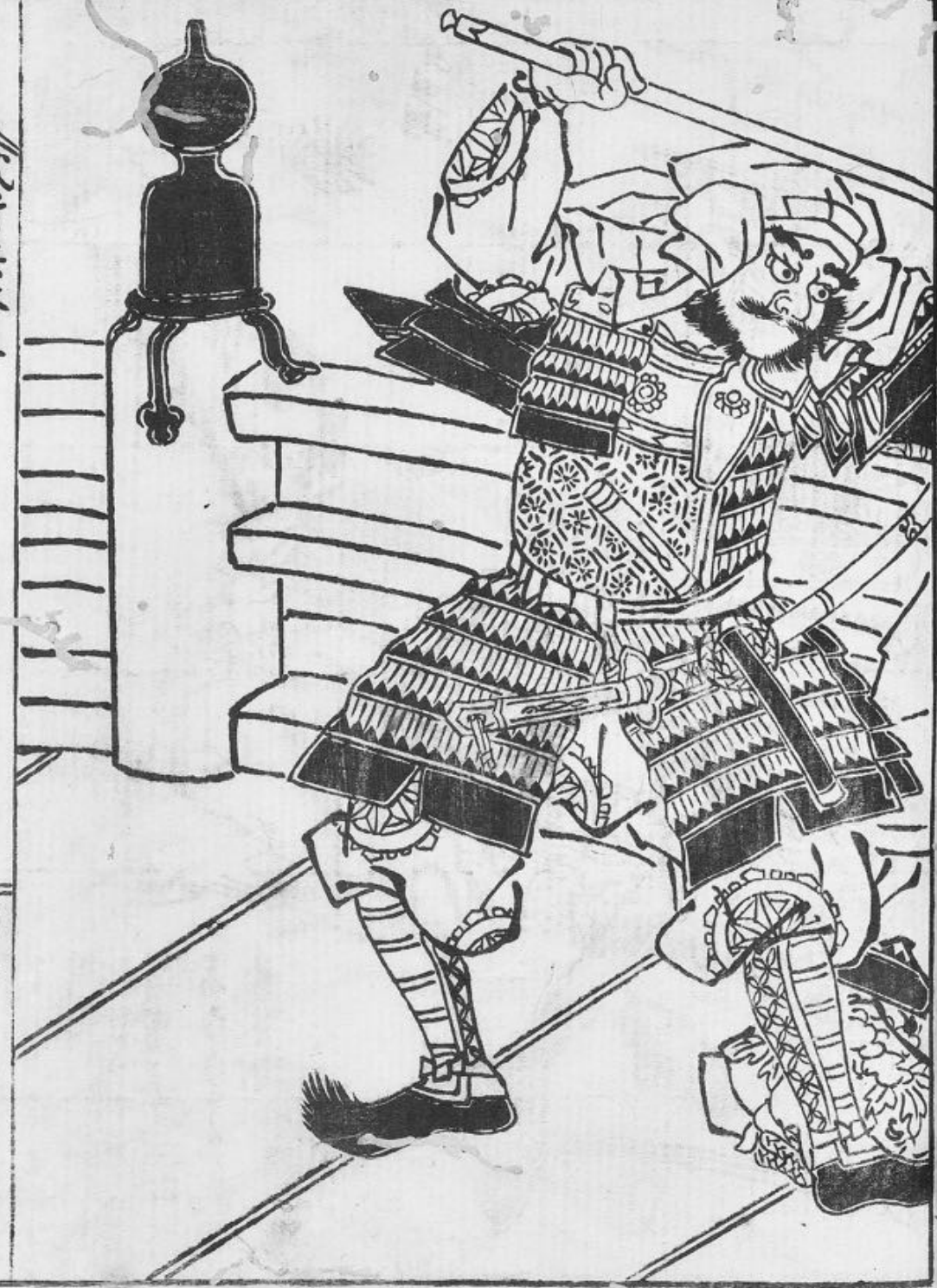
あまの

アハ

アハ



源義経年三十一
建仁二年八月
丁未の夜
十八日軍の
時





内田之市宮守
 美野之太剛の
 者ありて巴の
 龍と捨てたる

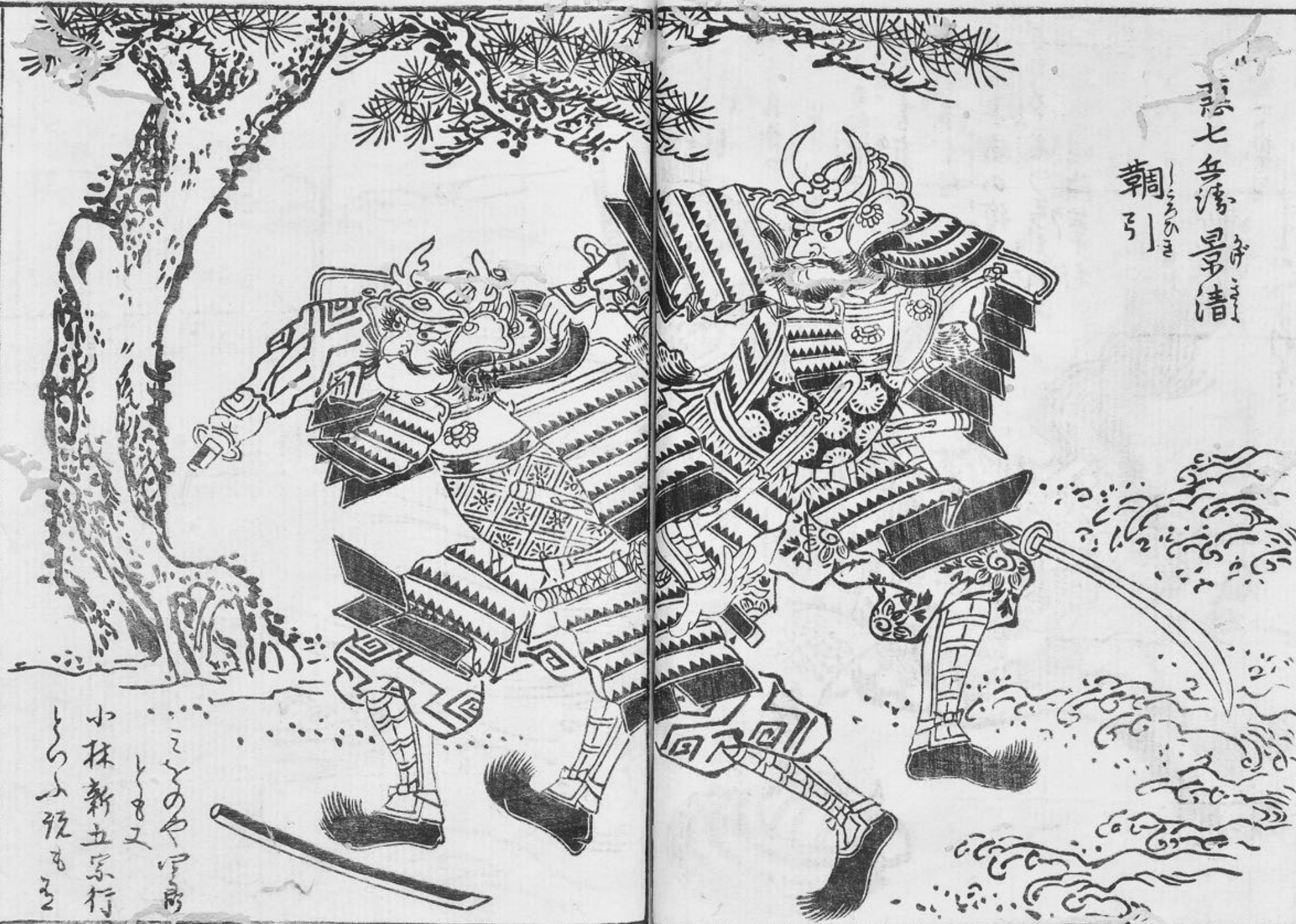


関寺合戦の
 時巴が出立ハ
 ひらした隔子
 織付する直衣
 菊団藻く付
 とくご威の控ニアス
 の
 甲とぬいさす
 顔の六冠
 南て髪と

武者全書 上

七兵衛 景清

朝引

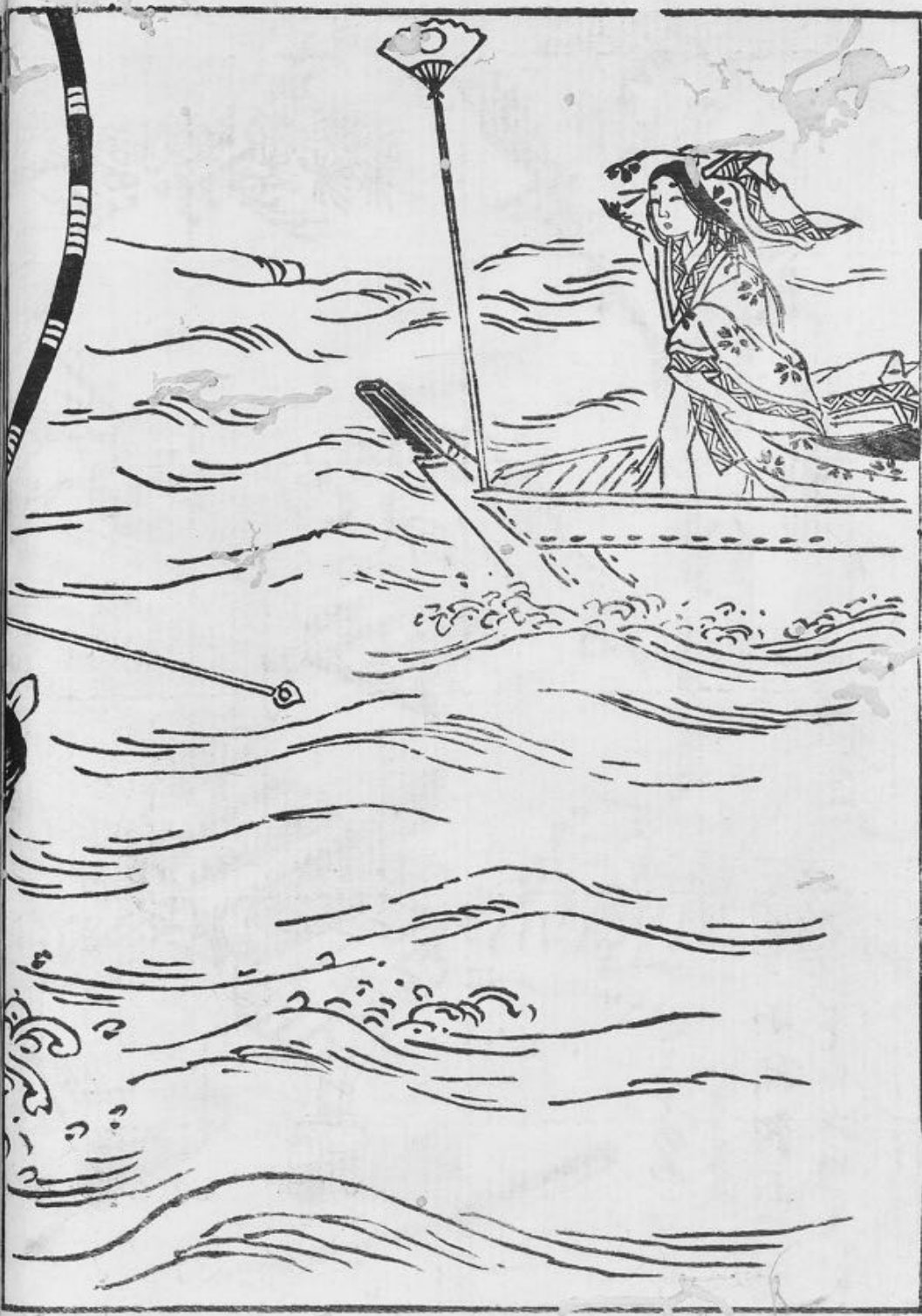


ここのやうな
しよと
小林新五郎行
とん小張も

武者全書 上

〇

〇



那須与一宗高

十七果

美男

事ハ

世

巧

福

あ

り



三
年
分
月

西
者
五
科
止

